

JACET中国・四国支部 Newsletter

第18号

目次

1. 巻頭言	支部長 松岡 博信	pp.1-2
2. 2016年度秋季支部研究大会報告	大会実行委員長 高橋 俊章	p.3
3. 2016年度支部第3回役員会報告	事務局幹事 三宅 美鈴	p.4
4. 2016年度支部研究会 第8回 OPP イベント報告	OPP 代表 岩井 千秋	pp.4-5
5. 2017年度春季研究大会発表応募要領		pp.5-6
6. 2017年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』投稿募集		p.6
7. 事務局だより		pp.6-7
編集後記		pp.7-8
【重要】 ニュースレター (NL) 配信についてお願い		pp.8-9

1. 巻頭言

中国・四国支部長 松岡 博信

JACET 中国・四国支部会員の皆様
新年明けましておめでとうございます。
本年も中国・四国支部の活動に対するご支援をどうかよろしくお願いたします。

さて、昨年末12月18日(日)に明治大学において理事会が開催され、副支部長の

岩井先生と共に参加しました。せっかく上京するというので、前日の17日(土)にも、岩井先生と私は、それぞれの別の会議に参加しており、ある意味、充実した東京出張となりました。

私が土曜日に参加した会議は、「英語教員

の英語力・指導力強のための調査研究事業「教員養成・研修 コア・カリキュラムについての意見 JACET 試案一」についての協議です。これは、文部科学省から事業を委託されている東京学芸大学の粕谷恭子先生を中心とするグループが、JACET に対しても意見を求められたことに対しての7人の支部長が九州・沖縄支部長の樋口 晶彦先生を中心として共同で作成しているものです。

実はこれに先立って JACET は、関東支部の木村松雄先生を中心とする理事が共同で「初等英語教育の強化のための7つの提言―初等英語教育に関わる教員に焦点を絞って―」を作成し、2016年6月8日に文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室に提出しました。その提言とは以下のごとくです。

- 提言1. 初等英語教員の資質・能力の明確化と4技能に関わる基準の検討
- 提言2. 複言語・複文化主義につながる異文化間理解能力育成の指標の設定
- 提言3. ALT の増員と ICT の活用
- 提言4. 理論と実践力を備えた専門教員の確保
- 提言5. 現職教員を対象とした専門教育課程(博士前期課程・博士後期課程)の創設
- 提言6. 英語教育実習の場の確保と研修の機会の保証
- 提言7. 財政の確保

これらの提言の詳細については、Web版である『JACET 通信』第197号の4-5頁をご参照ください。先の「教員養成・研修 コア・カリキュラムについての意見 JACET 試案」は、この「初等英語教育7つの提言」に基づき、JACET として意見を集約したものです。

今回の試案は、未だ修正・追加の余地を残しており、ここにそれについて詳述はしませんが、小学校・中学校・高等学校のそれぞれの校種における英語教育の改善を目的とする教員養成および教員研修のためのコア・カリキュラムを提案しています。特

に、教員養成課程におけるコア・カリキュラムについては、「教職に関する科目」(英語の指導法)と「教科に関する科目」(英語学など)に分けて提案する予定です。

ご存知のように本学会は、その名称が示すように、大学等における英語教育について論じる一般社団法人です。しかし、多くの大学は同時に、小学校・中学校・高等学校の教員養成課程を持っています。小中高の英語教育と全く無縁ではないのです。ましてや、2020年度に始まる小学校における新しい外国語教育課程のための教員養成は急務です。さらに、先の学習指導要領の改訂においては、小学校・中学校・高等学校を通して「外国語を通じてコミュニケーション能力を養う」をその大きな目標に掲げました。児童・生徒の「コミュニケーション能力を養う」のであれば、教師自身が英語のコミュニケーション能力をさらに向上させなければならないことは言うまでもありませんが、そのためには、否が応でも教師自身が抱えている言語不安から脱却し、少しでも英語による授業実践と日々の英語コミュニケーション能力向上に向けた精進に取り組むべき時代になっていると感じます。

今年度はあと残すところ3か月を切りました。JACET 中国・四国支部も6月には新しい役員体制がスタートします。私自身についても、前支部長の西田正先生の後を引き継いで、3期に渡り7年間支部長を務めさせていただきました。この間、紀要編集委員長を兼務するという忙しい3年間もありましたが、ここまで元気に本部および支部において国際大会をはじめとして様々な活動を大過なく行うことができたのは、会員の皆様の支部および役員に対するご支援のおかげであると心より感謝申し上げます。

皆様にとってこの一年がより良き年となりますように、そして中国・四国支部の活動がますます充実することを祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(安田女子大学)

2. 2016 年度秋季研究大会報告

大会実行委員長 高橋 俊章

大学英語教育学会 (JACET) 中国・四国支部 2016 年度秋季研究大会は、平成 28 年 10 月 22 日(土)に、山口大学教育学部を会場にして開催された。本研究大会では 6 件の研究発表と講演・ワークショップ 1 件が行われ、40 名弱の参加者があった。

「能動的な学習と授業参加を促す英語授業」という大会テーマに合わせ、『英語教室のためのアクティブラーニングガイドブック』(明治図書、2016)を執筆された上山晋平先生(福山市立中・高等学校)に Active Learning に関する講演・ワークショップをお願いしたところ、快諾してくださった。

第 1 室では、「授業外学習と共同学習を取り入れた TOEIC 語彙指導について—上位レベルと中位レベルの場合—」(広島国際大学の三宅美鈴先生と山中英理子先生)、「YASUDA SYSTEM と Moodle の統合による「シナリオ英語」」(安田女子大学 松岡博信先生)、「デジタル機器を利用した大学生の英語学習実態に関する調査」(広島大学の榎田一路先生、森田光宏先生、阪上辰也先生、鬼田崇作先生)の 3 件の研究発表が行われた。

また、第 2 室では、「ポライトネスから見た日本人英語学習者の “I think” 使用」(就実大学の小田希望先生)、「高専 1 年生に対する体育 CLIL の可能性—英語を使用したサッカーの授業を事例として—」(海上保安大学の二五義博先生と宇部工業高等専門学校の伊藤耕作先生)、「第二言語学習者の言語活動におけるワーキングメモリの働きについて」(安田女子大学大学院の藤村美希さん)の 3 件の研究発表が行われた。

これまでの大会と同様、発表の内容は

多岐に渡っており、内容も興味深いものばかりであった。第 1 室では、協同学習が (TOEIC 語彙に関する) 授業外学習の動機を高めるという発表、映画のシナリオを用いた能動的で楽しい e-learning の実践報告、また、デジタル機器を利用した大学生の英語学習実態に関する意外性のある報告がなされた。また、第 2 室では、「と思う」という日本語のポライトネスストラテジーの適用により、I think が付加されることに関する発表、authentic な英語表現を使ってサッカーの戦術を話し合う CLIL の実践報告、リーディングとリスニングで異なるワーキングメモリの役割に関する発表がなされた。

どの発表も知的興味を喚起する内容で、思考の糧や知的刺激をたくさん得ることができるものだった。

最後の上山先生の講演・ワークショップでは、ワークショップ形式の演習を通して、参加者が Active Learning を実際に体験 (あるいは体感) した。そのことで、単なる知識の獲得と Active Learning で得る理解の深さの違いは別次元であることを感じるものとなった。このような経験は体験して初めて理解できるものであり、参加者にとって有意義な経験になったのではないかと感じた。

また、上山先生は、今回の講演・ワークショップに際して、両面印刷で 50 枚を超える資料を準備してくださり、本当にありがたく思いました。

最後に秋季大会の開催に関しては、山口大学教育学部の後援を得ることができ、会場使用料が不要となりました。あらためて、感謝申し上げます。

(山口大学)

3. 2016年度 JACET 中国・四国支部

第3回役員会報告

事務局幹事 三宅 美鈴

2016年10月22日(土)に開催された第3回支部役員会にて、2017年度の事業計画(案)、予算(案)および人事(案)について話し合いが行われました。暫定的ではありますが、お知らせいたします。

1) 春季研究大会

日程：2017年6月3日(土)

場所：岡山大学教育学部

(岡山市北区津島中1丁目1番1号)

大会テーマ：未定

2) 秋季研究大会

日程：2017年10月21日(土)

場所：香川大学

(香川県高松市幸町1番1号)

大会テーマ：未定

3) Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会

日程：2017年12月10日(日) 予定

場所：未定

4) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』(第15号)

発行：2018年3月31日(予定)

・支部ニューズレター

発行：2017年7月30日(第19号)、2018年1月10日(第20号)(予定)

4. 2016年度支部研究会 OPP イベント報告

OPP代表 岩井 千秋

OPP2016を昨年末の12月11日(日)に広島国際大学呉キャンパス・メディアホールにて開催しました。数えて今回が8回目、「桃栗3年、柿8年」の故事の教えよろしく、OPPもついに8年の壁を超えました。これもひとえにこの活動の趣旨に賛同しご参加いただいていた先生方、ご理解・ご支援をいただいている支部会員の皆様、そして壇上で数々のパフォーマンスを披露してくれた学生の皆さんのお陰です。OPP研究会を代表して、皆様に心からお礼申し上げます。また、この度の開催にあたり、会場校をご提供いただいた広島国際大学の関係者の皆さま、とりわけ開催に向けご尽力いただいた同大学の三宅美鈴先生、山中英

理子先生に厚くお礼申し上げます。

今年の大会を一言で表現すると「盛り上がり」ということになるかと思えます。支部紀要13号にOPPについての共著論文を投稿させていただきましたが、協働学習を基盤とするOPPの鍵語は「祭り」、まさにこの祭りの盛り上がり、過去のどの大会にもまして強く感じました。イベントのclosing ceremonyでは、堅苦しい挨拶は止めて、代わりに吉本先生(県立広島大学)の発案で、学生・教員と一緒に壇上に上がりHey Judeを熱唱しました。この延長で懇親会に突入、堀部先生(広島工業大学)の乾杯の音頭で宴がスタート、会場はさらに熱気に包まれ、閉会を宣言してもなかなか

か皆さん会場を後にされず、困ったほどです。加えて、今回は山口から2組ほど新規のエントリーがあり、大会を盛り上げていただきました。ひとつは山口学芸大学の岩中貴裕先生・パーキン・ダグラス先生の組、もうひとつは山口大学の尊田望先生の組です。来年以降も是非レギュラーメンバーとしての参加をご検討いただければと思います。

それでは以下にプログラム（発表順）を紹介しておきましょう（記載内容は、指導教員名(敬称略)、大学名、発表タイトル、カッコ内に参加学生数）。

- ・ 吉本和弘 県立広島大学 “Roald Dahl’s *Revolting Rhymes*” (10)
- ・ 平本哲嗣 安田女子大学 “Songs for OPP: All We Need is Harmony!” (13)
- ・ 三熊祥文・堀部秀雄 広島工業大学 “HIT-Chants 2016”, “TED-Chants on the Train”, and “Recitation: Academic Presentation” (10)
- ・ 三宅美鈴・山中英理子 広島国際大学 “*The Little Prince: Memorable Words*” (14)
- ・ 岩井千秋 広島市立大学 “Storytelling and musical “*Chi-chan’s Kageokuri Play*” (5)

- ・ 尊田望 山口大学 “What I Learned in the Philippines” (1)
- ・ パーキン ダグラス・岩中貴裕 山口学芸大学 “Don’t Stop Believing” (17)
- ・ 二五義博 海上保安大学校 “This is what you are going to experience if you become a freshman in JCGA” (9)

参加者数ですが、指導教員 11 名、学生パフォーマー 79 名、その他ご来場いただいた皆様を加えると 100 名を超える大会となりました。

OPP 研究会では、このイベントが持続可能となるようにメンバーで様々な意見やアイデアを出し合って、今回の大会に向けて準備を進めてきました。発表エントリーは支部メーリングリストで7月頃にお知らせし、すべての支部会員の皆様にオープンにしています。来年も多くの皆様にご関心をお持ちいただけることを願いながら、今回のイベントについてご報告させていただきます。

(広島市立大学)

5. 2017年度春季研究大会発表募集要領

2017年6月3日(土)に2017年度春季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部春季研究大会

日時：2017年6月3日(土)

場所：岡山大学教育学部

(岡山市北区津島中1丁目1番1号)

A) 応募情報(英語での併記もお願い致します)

a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語

b. 種別 (Style) : 自由研究発表、実践報告、事例研究など

c. 氏名 (Name) :

d. 研究領域 (Research Area) :

e. 概要 (Abstract) : 目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など日本語の場合は600字以内、英語の場合は250 words以内とする。

f. 所属 (Affiliation) :

g. 使用機器 (Equipment needed) :

h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2017年5月22日(月)
午後11時59分まで

■申込先

下記支部HPの申込フォームをご利用ください(発表、および懇親会への参加申込ができます)。

<https://ws.formzu.net/fgen/S1408183/>

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員ML、および支部HPでお知らせします。(支部会員MLへのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 三宅 美鈴
m-miyake@it.hirokou-u.ac.jp

6. 2017年度『JACET中国・四国支部研究紀要』投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として、年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に関催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り：10月末
- 審査結果通知：12月末
- 修正原稿締め切り：1月末
- 刊行：3月末

投稿先：支部HP フォームズから

お問い合わせ：紀要編集委員会委員長
平本哲嗣(安田女子大学)

E-mail: hiramoto@yasuda-u.ac.jp

7. ～事務局だより～

2016年8月から2016年12月までの新入会員5名をご紹介します。

★新入会員紹介★

Douglas Parkin (山口学芸大学)
森谷 浩士 (島根県立大学)

遠藤 利昌 (広島国際大学)
Donald Cherry (広島国際大学)
水津 ありさ (広島大学、学生)
(敬称略)

皆様、どうぞよろしくお願いたします。

2017年度の支部人事および本部運営委

員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、よろしく願いいたします。

★支部人事案★

【支部役員】

(2017年6月定時社員総会まで)

支部長 松岡博信 (安田女子大学)

(2017年6月定時社員総会後～2019年6月まで)

支部長 岩井千秋 (広島市立大学)

副支部長 高橋俊章 (山口大学)

支部幹事 (*は事務局幹事)

*三宅美鈴 (広島国際大学)

岩中貴裕 (山口学芸大学)

支部会計担当者

堀部秀雄 (広島工業大学)

支部研究企画委員 (23名)

五百蔵高浩 (高知県立大学)

池野 修 (愛媛大学)

岩中貴裕 (山口学芸大学)

上西幸治 (広島大学)

折本素 (愛媛大学)

小山尚史 (岡山大学)

高垣俊之 (尾道市立大学)

高橋俊章 (山口大学)

瀧由紀子 (松山大学)

田辺尚子 (安田女子大学)

田淵博文 (就実大学)

寺嶋健史 (松山大学)

中住幸治 (香川大学)

中山晃 (愛媛大学)

二五義博 (海上保安大学校)

西田 正 (福山大学)

平本哲嗣 (安田女子大学)

堀部秀雄 (広島工業大学)

三熊祥文 (広島工業大学)

三宅美鈴 (広島国際大学)

山川健一 (安田女子大学)

山中英理子 (広島国際大学)

ローレンス・ダンテ (就実大学)

【本部委員】

理事 岩井千秋 (広島市立大学)

高橋俊章 (山口大学)

総務委員会 (支部事務局幹事)

三宅美鈴 (広島国際大学)

財務委員会 (支部会計担当者)

堀部秀雄 (広島工業大学)

国際大会組織委員会本部

山川健一 (安田女子大学)

『JACET 通信』委員会

松岡博信 (安田女子大学)

学術出版委員会紀要担当

平本哲嗣 (安田女子大学)

学術出版委員会

平本哲嗣 (安田女子大学)

セミナー事業委員会 サマーセミナー担当

田淵博文 (就実大学)

研究促進委員会

岩井千秋 (広島市立大学)

国際交流委員

堀部秀雄 (広島工業大学)

大学英語教育学会賞運営委員会

池野 修 (愛媛大学)

★支部紀要・ニューズレター発行予定★

● 『支部紀要』第15号

2017年3月31日刊行(予定)

● 『大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター』

2017年7月30日(第19号)発行(予定)

2018年1月10日(第20号)発行(予定)

【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。

2016年は、リオオリンピックにおいて体操の内村航平選手や陸上男子400メートル

リレーの4選手、卓球女子団体の福原愛選手、石川佳純選手、伊藤美誠選手、卓球個人での水谷隼選手、そしてパラリンピック

柔道の広瀬順子選手やマラソンの道下美里選手など、たくさんの選手から感動をいただきました。特に、4連覇を成し遂げた伊調馨選手やバドミントン女子ダブルス優勝の高橋礼華選手・松友美佐紀選手などの女性スポーツ選手、そして政治からは小池百合子都知事など、女性が大活躍した年ではなかったでしょうか。

女性と言えば、昨年の秋から TBS テレビで放映された「逃げるが恥だが役に立つ」というドラマが NHK でも取り上げられるほど話題となりました。ドラマの中では主人公だけでなく脇役からも社会問題が提起されているような場面がいくつもありました。若者の結婚観、就職問題、専業主婦の労働対価、子育て問題、シングルママ事情、キャリアウーマンの心情など、自分をどこかの役どころに落とし込めたのがヒットの要因だったのかもしれませんが。このドラマを通して、改めて数値化しにくい家事労働の数値化や頑張っているキャリアウーマンは美しいということなどに気づいた人も多かったのではないのでしょうか。

キャリアウーマンと言えば、2012 年から発足した第 2 次安倍内閣の政策「アベノミクス」の中に「女性が輝く日本」という政策を掲げています。しかし、未だに日本の

企業における女性管理職の割合は、世界と比較すると低いのが実態のようです。ゴールドマンサックスの報告では、現代社会における男女の雇用格差が解決すれば、日本の労働人口は 820 万人増加するそうです。子どもを増やすのも未来の日本にとって必要不可欠ですが、女性を活かした社会を作るのが即実現可能な未来ある日本の姿かもしれません。女性が輝けば男性も輝く、私はそう信じています。2017 年、日本の女性がさらに輝くことができる社会となりますように！モヤモヤ感解消に向けて！ファイト！！

(M.M)



【重要】 JACET(大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 松岡 博信(安田女子大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014 年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしく願いいたします。

1. 支部 HP
(<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。

2. 入力フォームのサイトのページ
(<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。

3. ウェブの入力フォームに下記の情報を入力する。

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

- すでに登録している
希望する

希望しない
(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス

※ニュースレターはメール送信とともに、
支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の平本
(hiramoto@yasuda-u.ac.jp) までお問い合わせください。

**メールアドレスが変更された方は、
事務局までお知らせください。**

JACET 中国・四国 Newsletter 第18号

2017年1月10日 発行

発行人 : JACET 中国・四国支部(支部代表 松岡 博信)

編集 : JACET 中国・四国支部 三宅 美鈴

発行所 : 〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 保健医療学部医療技術学科
三宅 美鈴

連絡先 : Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp